

シラバス（授業計画書）

科目名（ コンピュータ演習 ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

コンピュータ演習の前半では、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべき、パワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Wordでの表やグラフ作成のなどを用いて、症例事例の作成やExcelとの連携についても学習します。

2 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来る。また、プレゼンや報告書の制作スキルを習得します。

3 授業の方法

PC室において、講師用PCをプロジェクターに写し、捜査方法を同時に行いながら、修得します。又、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 → 70%

授業態度 → 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、PC室の空き時間は自由にPCが使用可能である為、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

配布資料をもとに授業を進めていきます。

8 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」をMicrosoft社の「Office2019」を使用して基礎から学習します。今回はWord, Excel, PowerPointを基礎から学習し、事例演習の症例レポート作成まで行います。臨床実習でも役立ててください。

9 教員氏名（ 小泉徹児 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 民間企業にてシステムエンジニアとして勤務経験あり。

社会人として必須のパソコンスキルが身につくよう導く（情報）

10 特記事項

実務経験のある常勤教員による授業科目

科目名 (コンピュータ演習)

回数	授業内容
1	PC や外部装置 (USB 等) の説明やアプリケーション (Office2019) の全体説明
2	Word 基礎知識
3	Word グラフィック機能
4	Word ワードでの表作成
5	Word 症例レポートの実例作成 (A : レジメ - 1)
6	Word 症例レポートの実例作成 (A : レジメ - 2)
7	Word 症例レポートの実例作成 (B : 症例レポート - 1)
8	Word 症例レポートの実例作成 (B : 症例レポート - 2)
9	Word 症例レポートの実例作成 (C : 解説)
10	Excel 基礎知識
11	Excel 表やグラフの作成
12	Word・Excel アプリケーション間でのデータ共有
13	PowerPoint 基礎知識
14	PowerPoint プレゼンテーション作成
15	定期試験
16	答案返却及び解説 授業の進捗度・理解度等により順序が変更する場合もある。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医学英語 ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

医療人として英語能力は大切です。まずは、医学英単語を学び、簡単な英語論文の読解まで広げていきたいと思えます。また、近年リハビリテーション分野でも修士・博士課程の大学院進学を希望する理学療法士が増えております。それらの大学院入学を見据えた英文読解能力の基礎を養います。

2 到達目標

- ・ リハビリテーションにおける医学英単語を習得する。
- ・ 英語論文（抄録）を読んで、その概略を理解することができる。
- ・ 英語での簡単なコミュニケーションや情報共有、問診を学習する。

3 授業の方法

講義形式とグループワーク、実技を含みます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 70% 授業態度 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、積極的な実践態度や、グループワークでの積極的参加を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業で配布する資料の予習・復習により、知識の定着を促してほしい。

7 使用教材，教具

授業ごとに課題や資料を配布しますので資料の見直しをおこないましょう。

8 学生へのメッセージ

まずは一見難しそうな医学英語に慣れることから始めましょう。人体や病気に関する英単語を覚えることで、ある程度の医学英文の文意の理解を高め、コミュニケーションに活用できるよう自信をつけましょう。

9 教員氏名（ 大石 勝規 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務。

臨床現場の経験をもとに医学英語の指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (医学英語)

回数	授業内容
1	医学英語の必要性について
2	リハビリテーション関連の医学英語 (1)
3	リハビリテーション関連の医学英語 (2)
4	リハビリテーション関連の医学英語 (3)
5	英語で理解する病気とリハビリテーション (1)
6	英語で理解する病気とリハビリテーション (2)
7	英語で理解する人体の構造 上肢帯 (1)
8	英語で理解する人体の構造 上肢帯 (2)
9	英語で理解する人体の構造 体幹 (1)
10	英語で理解する人体の構造 体幹 (2)
11	英語で理解する人体の構造 下肢 (1)
12	英語で理解する人体の構造 下肢 (2)
13	医学論文 (抄録) を読んでみよう。 「理学療法学」 から抽出
14	医学英語を用いたコミュニケーション
15	定期試験
16	答案返却, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 人間発達学 ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の内容

本講座では、人間の一生を通じた発達の過程を学びます。身体的・精神的発達の仕組みと、それに関連する理学療法の基礎知識を修得することを目的とします。

2 到達目標

- ・人間の発達段階ごとの特徴を説明できる
- ・運動発達，認知発達，社会的発達の基本的な相互作用を理解できる
- ・発達障害や加齢による変化への基礎的理解を持つ

3 授業の方法

教科書に準じた講義を中心に実施し，必要に応じて配布資料を配りながら実施。

4 成績評価方法・基準

定期試験80%，授業態度20%

5 評価の際の特記事項

聴講態度も含め総合的に評価の対象とします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容のまとめを小テスト形式で実施することもあるため，予習および復習を徹底するように。

7 使用教材，教具

イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版会社

8 学生へのメッセージ

人が発達していくプロセスを学ぶことは，理学療法のプログラムを立てること，理学療法を行うことの基礎になります。共に学んでいきましょう。

9 教員氏名（ 田中 努 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり。

臨床現場の経験をもとに人間発達学の指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (人間発達学)

回数	授業内容
1	オリエンテーションと人間発達学の基礎
2	人間発達理論
3	発達検査
4	姿勢反射／反応
5	運動発達 (0～3ヶ月)
6	運動発達 (4～6ヶ月)
7	運動発達 (7～9ヶ月)
8	運動発達 (10～12ヶ月)
9	運動発達 (13～18ヶ月)
10	姿勢反射 6歳までの発達
11	上肢機能の発達
12	ADLの発達
13	学童から老年期の発達
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ パラスポーツ概論Ⅰ ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

パラスポーツ指導員の資格の取得のみならず、地域社会で活躍できる人材となるべくパラスポーツと社会福祉について学ぶ。実技・演習を通じて障がい者に対する援助法や地域社会でどのようなことが求められているのか考え実践できるように授業を展開していきます。

2 到達目標

- ・初級パラスポーツ指導員資格取得要件を満たすことができる。
- ・理学療法士として実習の場としてとらえ障がい者の援助法を学び実践する。
- ・地域社会での理学療法の職域について理解し深化することができる。
- ・ボッチャのルールを理解し、審判員ができる能力を身につけ、大会ボランティアを経験する。

3 授業の方法

障がい者指導者教本を使用し、障がい者に対する援助法・関連知識を座学で学び、現場（大会ボランティア）にて実践活動を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート：60% 実践態度：40%

5 評価の際の特記事項

授業レポート・実践参加レポートの内容にて評価する。

ボッチャの審判員の実技試験を行います。

特に現場実践での資質にかかわる部分を高く評価する。

初級パラスポーツ指導員資格取得の互換科目であり、原則欠席を認めない。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

ボッチャ審判員の練習、レポート作成に力を注ぐように

7 使用教材，教具

“障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応”
ぎょうせい

8 学生へのメッセージ

初級パラスポーツ指導員として即戦力として活躍できる人材になる意識を持ってください。一緒に活動しましょう。

9 教員氏名（ 大石勝規 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり。

臨床現場の経験をもとにパラスポーツ概論Ⅰの指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (パラスポーツ概論 I)

回数	授業内容	互換 (パラスポーツ指導員)
1	コミュニケーションスキル (自己紹介・他己紹介)	「コミュニケーションスキルの基礎」
2	スポーツ指導者に求められるもの：ボランティア論	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」
3	自己肯定感・自己効力感・援助方法論	「コミュニケーションスキルの基礎」
4	障害者福祉施策 (障害者総合支援法について)	「障がい者スポーツに関する諸施策」
5	障害者スポーツの紹介 (地域での障害者スポーツ)	「障がい者スポーツ推進の取り組み」
6	理学療法士が関わる領域におけるボランティア 障害者スポーツボランティア	「障がい者スポーツの意義と理念」
7	障がい者スポーツの意義と理念、日本障がい者スポーツ協会のビジョン	「障がい者スポーツの意義と理念」
8	障がい者スポーツ体験 (ボッチャ)	「障害に応じたスポーツの工夫・実施 (実技)」
9	障害に応じたスポーツの工夫・実施 (肢体不自由、聴覚・視覚障害)	「障害に応じたスポーツの工夫・実施 (実技)」
10	障害に応じたスポーツの工夫・実施 (内部障害、難病、小児疾患、その他)	「障害に応じたスポーツの工夫・実施 (実技)」
11	障がい者スポーツ指導者制度について	「障がい者スポーツに関する諸施策」
12	全国障害者スポーツ大会の概要	「全国障害者スポーツ大会の概要」
13	身体と障害 (身体障害・内部障害) 総論	「各障がいの理解」
14	障がい者とスポーツ・レクリエーション (知的・精神) 総論	「各障がいの理解」
15	障がい者スポーツ指導員の役割と未来、法令順守、アンチドーピング	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」

シラバス（授業計画書）

科目名（ パラスポーツ概論Ⅱ ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の内容

パラスポーツ指導員の資格の取得のみならず、地域社会で活躍できる人材となるべくパラスポーツと社会福祉について学ぶ。実技・演習を通じて障害者に対する援助法や地域社会でどのようなことが求められているのか考え実践できるように授業を展開していきます。

2 到達目標

- ・初級パラスポーツ指導員資格取得要件を満たすことができる
- ・理学療法士として実習の場としてとらえ障害者の援助法を学び実践する
- ・地域社会での理学療法の職域について理解し深化することができる

3 授業の方法

障がい者指導者教本を使用し、障がい者に対する援助法・関連知識を座学で学び、現場にて実践活動を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート：80% 実践態度：20%

5 評価の際の特記事項

授業レポート・実践参加レポートの内容にて評価する。

特に現場実践での資質にかかわる部分を高く評価する。

初級パラスポーツ指導員資格取得の互換科目であり、原則欠席を認めない。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

レポート作成に力を注ぐように

7 使用教材，教具

“障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応”
ぎょうせい

8 学生へのメッセージ

初級パラスポーツ指導員として即戦力として活躍できる人材になる意識を持ってください。実際に活動できる場を提供します。一緒に活動しましょう。

9 教員氏名（大石 勝規）

所属（こころ医療福祉専門学校 理学療法科）

実務経験の詳細（大石：病院にて理学療法士として勤務経験あり

臨床現場の経験をもとにパラスポーツ概論Ⅱの指導にあたる。（医療・福祉）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目。

科目名 (パラスポーツ概論Ⅱ)

回数	授業内容	互換 (パラスポーツ指導員)
1	身体障害者の歴史 (身体障害者の特性とその支援)	
2	障害者虐待についてのその対策と支援、アンガーマネジメントについて	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」
3	障害福祉センターの説明、スポーツ紹介	
4	施設見学 (スポーツレクを体験しよう①)	「障がいのある人との交流」
5	施設見学 (スポーツレクを体験しよう②)	「障がいのある人との交流」
6	精神障害者の特性とその支援	「各障がいの理解」
7	知的障害者の特性とその支援	「各障がいの理解」
8	障害者各論 (身体障がい内部障害)	「各障がいの理解」
9	障害者各論 (視覚障がい・聴覚・音声障がい)	「各障がいの理解」
10	障害者各論 (脳性麻痺)	「各障がいの理解」
11	障害者各論 (脊髄損傷)	「各障がいの理解」
12	障がいの分類と概要・クラス分け・障害区分	「各障がいの理解」
13	補装具 (義肢・装具・車いす・用具)	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫」
14	障がい者スポーツ指導援助計画	「障がい者スポーツ推進の取り組み」
15	安全管理・救急法	「安全管理」

シラバス (授業計画書)

科目名 (生活環境論)

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

福祉住環境の中でも特に、理学療法士にとって必要な住環境整備として建物の構造や特徴、そして代表的な疾患に対してどのように対応して行くのかを学ぶ。

2 到達目標

建物の構造を理解し、住宅改修や福祉用具の設置の原則を理解する。

3 授業の方法

教科書に準じた内容で実施する。内容に応じてプリントやパワーポイントを使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、質問の返答、グループワークの積極性等を総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

福祉住環境コーディネーター2級の資格取得は卒業認定の一つとなっています。そのため、授業内容の理解度を深めるために、予習・復習を着実にを行い、資格取得につなげていきましょう。

7 使用教材，教具

福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト<改訂6版> 東京商工会議所

8 学生へのメッセージ

退院後の生活を見据えて、自宅環境を整えるための知識になります。長く、安心して患者様や家族が暮らせる自宅環境を提案することも理学療法士の仕事の一つです。患者様の身体を整えると同時に自宅環境も整えていきましょう。

9 教員氏名 (田中努)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて勤務理学療法士として勤務経験あり。

臨床現場の経験をもとに生活環境論の指導にあたる。(医療))

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(生活環境論)

回数	授業内容
1	高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境
2	福祉住環境コーディネーターの役割と機能
3	障害のとらえ方
4	リハビリテーションと自立支援
5	高齢者・障害者の心身の特性
6	在宅介護での自立支援のあり方
7	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備
8	障害別にみた福祉住環境整備
9	福祉住環境整備とケアマネジメント
10	福祉住環境整備の進め方
11	福祉住環境整備関連職への理解と連携
12	相談援助の実践的な進め方
13	福祉住環境整備の共通基本技術
14	生活行為別福祉住環境整備の手法, 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識
15	定期試験
16	答案返却及び解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖・生理 I 骨・筋)

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の基本的な構造と機能に関して、骨格系、筋などの器官系統ごとに学習し、リハビリテーションの基礎となる解剖生理学に関する理解を深める。

2 到達目標

人体の基本的生理機能について、器官系統ごとに説明することができる。

3 授業の方法

授業前に配布資料を渡します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、国家試験形式で出題する。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材, 教具

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版, 医学書院

8 学生へのメッセージ

授業で理解できなかった内容は、必ず理解できるまで質問・学習すること。また、教科書をしっかり読むことを習慣にしてください。

9 教員氏名 (村田 潤)

所 属 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

実務経験の詳細 (病院及び介護施設にて作業療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに解剖・生理 I (骨・筋) の指導にあたる。(医療))

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (解剖・生理 I 骨・筋)

回数	授業内容
1	解剖生理学総論 (人体の構成要素としての細胞, 組織, 器官, 器官系)
2	細胞の構造と機能
3	組織とその分類「器官をつくる4大組織とその特徴」
4	細胞の興奮と情報伝達 1
5	細胞の興奮と情報伝達 2
6	人体の発生、発育、老化
7	小テスト 解説
8	骨格系 (骨の構造)
9	頭部の骨
10	脊柱, 胸郭
11	小テスト 解説
12	上肢帯と下肢帯の骨
13	関節と靭帯 1
14	関節と靭帯 2
15	小テスト 解説
16	筋系 (筋の構造)
17	頭頸部の筋
18	体幹の筋
19	上肢の筋
20	下肢の筋
21	小テスト 解説
22	骨格筋の構造 (筋線維の分類)
23	筋収縮のメカニズム
24	筋収縮の力学的特性, 筋収縮のエネルギー
25	内臓筋 (心筋と平滑筋)
26	運動単位と神経支配比, 運動トレーニング (筋肥大)
27	小テスト 解説
28	まとめ
29	定期試験
30	答案返却, 解説
31	答案返却, 解説, 講義総括

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖・生理 I 演習 (骨・筋))

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の基本的な構造と機能に関して、骨格系、筋などの器官系統ごとに学習し、リハビリテーションの基礎となる解剖生理学に関する理解を深める。また、国家試験に向けて、まとめノートを作成し、項目ごとにまとめる。

2 到達目標

国家試験に向けてまとめノートを作成すること。国家試験過去問題を解き、傾向を押さえつつ、過去問に対応できる勉強方法を身に付けること。

3 授業の方法

解剖・生理 I (骨・筋) の授業範囲内のまとめノート作成を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% レポート (まとめノート) 20%

5 評価の際の特記事項

小テスト・定期試験は、国家試験過去問題から出題する。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材, 教具

<教科書> 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版, 医学書院

<参考図書> メディックメディア: クエスチョン・バンク 共通問題

<資料> 解剖・生理学 I 村田潤先生の配布資料

8 学生へのメッセージ

授業で理解できなかった内容は、必ず理解できるまで質問・学習すること。また、教科書をしっかり読むことを習慣にしてください。

9 教員氏名 (川原 洋一 松本真一郎 山口浩司)

所 属 (ころろ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (全ての教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに解剖・生理 I 演習 (骨・筋) の指導にあたる。(医療))

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (解剖・生理 I 演習 (骨・筋))

回数	授業内容
1	解剖生理学総論 (まとめノート作成方法)
2	細胞の構造と機能
3	組織とその分類「器官をつくる4大組織とその特徴」
4	細胞の興奮と情報伝達 1
5	細胞の興奮と情報伝達 2
6	人体の発生
7	小テスト 解説
8	骨格系 (骨の構造)
9	頭部の骨
10	脊柱, 胸郭
11	小テスト 解説
12	上肢帯と下肢帯の骨
13	関節と靭帯 1
14	関節と靭帯 2
15	小テスト 解説
16	筋系 (筋の構造)
17	頭頸部の筋
18	体幹の筋
19	上肢の筋
20	下肢の筋
21	小テスト 解説
22	骨格筋の構造 (筋線維の分類)
23	筋収縮のメカニズム
24	筋収縮の力学的特性, 筋収縮のエネルギー
25	内臓筋 (心筋と平滑筋), 運動単位と神経支配比, 運動トレーニング (筋肥大)
26	まとめ (骨・筋・靭帯)
27	まとめ (骨・筋・靭帯)
28	国家試験過去問題
29	定期試験 まとめノート提出
30	答案返却・解説
31	答案返却・解説・講義総括

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖・生理Ⅱ (神経・感覚器))

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の基本的な構造と機能に関して、神経、感覚などの器官系統ごとに学習し、リハビリテーションの基礎となる解剖生理学に関する理解を深める。

2 到達目標

人体の基本的生理機能について、器官系統ごとに説明することができる。

3 授業の方法

授業前に配布資料を渡します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、国家試験形式で出題する。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材, 教具

<教科書>

病気がみえる 脳・神経 vol.7, MEDIC MEDIA

8 学生へのメッセージ

授業で理解できなかった内容は、必ず理解できるまで質問・学習すること。また、教科書をしっかり読むことを習慣にしてください。

9 教員氏名 (村田 潤)

所 属 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

実務経験の詳細 (病院及び介護施設にて作業療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに解剖・生理Ⅱ (神経・感覚器) の指導にあたる。(医療))

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (解剖・生理Ⅱ (神経・感覚器))

回数	授業内容
1	神経の構造, 神経系の構成
2	末梢神経系 (体性神経) 総論
3	末梢神経系 (体性神経) 各論
4	末梢神経系 (体性神経) まとめ
5	末梢神経系 (脳神経)
6	末梢神経系 (自律神経)
7	小テスト 解説
8	骨格筋の神経支配
9	脊髄の構造と機能
10	脳幹部の構造と機能
11	間脳の構造と機能
12	小テスト 解説
13	小脳の構造と機能
14	間脳の構造と機能
15	大脳基底核の構造と機能
16	大脳皮質の構造
17	大脳皮質の機能
18	小テスト 解説
19	感覚器系の構成と性質
20	皮膚の構造と知覚, 筋の感覚
21	視覚器の構造
22	視覚器の機能
23	聴覚・平衡覚器の構造
24	聴覚・平衡覚器の機能
25	味覚器の構造
26	味覚器の機能
27	嗅覚器の構造と機能
28	小テスト 解説
29	定期試験
30	答案返却, 解説
31	答案返却, 解説, 講義総括

シラバス(授業計画書)

科目名(解剖・生理Ⅱ演習 (神経・感覚器))

学科名

理学療法科

学年 1年

1. 授業の概要

人体の基本的な構造と機能の理解は、リハビリテーションの基礎となります。神経、感覚などの器官系統ごとに学習内容を再確認して理解を深めることのできるように、解剖生理学の授業の補足と問題演習を中心に授業を展開していきます。

2. 到達目標

解剖生理学Ⅱ神経の講義で学習した内容を復習し、用語を覚えて、それがどのような意味、機能があるのかを把握する。

3 授業の方法

解剖・生理学の授業と並行して補習や問題演習を行っていきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験100%

5 評価の際の特記事項

授業内で実施する問題演習を中心に定期試験を出題します。

6 授業時間外学習

解剖生理学の授業の進度に合わせて進めるので、解剖生理学の復習をするように。

問題演習プリントは毎回復習し、各自で弱点の克服をするように。

7 使用教材, 教具

病気がみえる 脳・神経 vol.7, MEDIC MEDIA

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版, 医学書院

解剖・生理学Ⅱ村田潤先生の配布資料

8 学生へのメッセージ

初めて学習する用語が多く出てきますので、まずは丁寧に授業の内容を押さえるようにしましょう。解剖・生理は理学療法士を目指すうえでの基礎であり、重要な科目になります。

9 教員氏名 (田中努)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに解剖・生理Ⅱ演習(神経・感覚器)の指導にあたる。(医療))

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(解剖・生理Ⅱ演習 (神経・感覚器))

回数	授業内容
1	神経の構造, 神経系の構成
2	末梢神経系 (体性神経) 総論
3	末梢神経系 (体性神経) 各論
4	末梢神経系 (体性神経) まとめ
5	末梢神経系 (脳神経)
6	末梢神経系 (自律神経)
7	まとめ①
8	骨格筋の神経支配
9	脊髄の構造と機能
10	脳幹部の構造と機能
11	間脳の構造と機能
12	まとめ②
13	小脳の構造と機能
14	間脳の構造と機能
15	大脳基底核の構造と機能
16	大脳皮質の構造
17	大脳皮質の機能
18	まとめ③
19	感覚器系の構成と性質
20	皮膚の構造と知覚, 筋の感覚
21	視覚器の構造
22	視覚器の機能
23	聴覚・平衡覚器の構造
24	聴覚・平衡覚器の機能
25	味覚器の構造
26	味覚器の機能
27	嗅覚器の構造と機能
28	まとめ④
29	定期試験
30	答案返却, 解説
31	答案返却, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖・生理Ⅲ （内臓諸器官） ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の基本的な構造と機能に関して、循環，呼吸，体液，腎，消化，内分泌，生殖器などの器官系統ごとに学習し，リハビリテーションの基礎となる解剖生理学に関する理解を深める。

2 到達目標

人体の基本的生理機能について，器官系統ごとに説明することができる。

3 授業の方法

授業前に配布資料を渡します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は，国家試験形式で出題する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め，配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材，教具

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版，医学書院

8 学生へのメッセージ

授業で理解できなかった内容は，必ず理解できるまで質問・学習すること。また，教科書をしっかり読むことを習慣にしてください。

9 教員氏名（ 村田 潤 ）

所 属（ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 ）

実務経験の詳細（病院及び介護施設にて作業療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに解剖・生理Ⅲ（内臓諸器官）の指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (解剖・生理Ⅲ (内臓諸器官))

回数	授業内容
1	血液の組成と機能
2	免疫機能, 止血機構
3	心臓の構造
4	心臓の機能
5	脈管系 総論
6	脈管系 各論
7	脈管系 まとめ
8	循環機能の調節
9	小テスト 解説
10	呼吸器の構造
11	呼吸運動の調節
12	呼吸ガスと血液ガス
13	腎臓の構造と機能
14	尿の生成, 排尿
15	小テスト 解説
16	消化器の構造
17	消化と吸収 1 (嚙下の調節, 胃での消化)
18	消化と吸収 2 (小腸・大腸での消化)
19	栄養と代謝 I (代謝, 中間代謝)
20	栄養と代謝 II (エネルギー代謝)
21	小テスト 解説
22	内分泌系の機能 1 (総論, 視床下部のホルモン)
23	内分泌系の機能 2 (下垂体・甲状腺のホルモン)
24	内分泌系の機能 3 (副腎・膵臓・生殖腺のホルモン)
25	体温の調節 1 (熱産生と熱放散)
26	体温の調節 2 (体温調節機構)
27	生殖器
28	小テスト 解説
29	定期試験
30	試験解答, 解説
31	試験解答, 解説, 講義総括

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理Ⅲ演習（内臓諸器官） ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の内容

基礎3科目（解剖学，生理学，運動学）は，理学療法士になるために最も重要な学問といえます。基礎3科目の成績不振はその他の科目の講義や実技に多く影響を与えます。ほとんどの学生が解剖学，生理学は初めて学ぶ学問であるため解剖生理学の授業の補足と問題演習を中心に授業を展開していきます。

2 到達目標

- ・解剖生理学の学びの深化
- ・苦手意識を克服する
- ・学習習慣をつける

3 授業の方法

解剖・生理学の授業と並行して補習や問題演習を行っていきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験100%

5 評価の際の特記事項

授業内で実施する問題演習を中心に定期試験を出題します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

解剖生理学の授業の進度に合わせて進めるので，解剖生理学の復習をするように。問題演習プリントは毎回復習し，各自で弱点の克服をするように

7 使用教材，教具

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版，医学書院
解剖・生理学Ⅲ村田潤先生の配布資料

8 学生へのメッセージ

基礎3科目は理学療法を志す者にとって幹となる学問です。疾患などを学んでいくうえでも必要な知識で，国家試験でも重要な科目になります。予習・復習を行いしっかりと知識の定着ができるように学習していきましょう。

9 教員氏名（ 田中 努 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（病院にて理学療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに解剖・生理Ⅲ演習（内臓諸器官）の指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (解剖生理Ⅲ演習 (内臓諸器官))

回数	授業内容
1	血液の組成と機能
2	免疫機能, 止血機構
3	心臓の構造
4	心臓の機能
5	脈管系 1 総論
6	脈管系 2 各論
7	脈管系 3 全身
8	循環機能の調節
9	まとめ①
10	呼吸器の構造
11	呼吸運動の調節
12	呼吸ガスと血液ガス
13	腎臓の構造と機能
14	尿の生成, 排尿
15	まとめ②
16	消化器の構造
17	消化と吸収 1 (嚥下の調節, 胃での消化)
18	消化と吸収 2 (小腸・大腸での消化)
19	栄養と代謝 I (代謝, 中間代謝)
20	栄養と代謝 II (エネルギー代謝)
21	まとめ③
22	内分泌系の機能 1 (総論, 視床下部のホルモン)
23	内分泌系の機能 2 (下垂体・甲状腺のホルモン)
24	内分泌系の機能 3 (副腎・膵臓・生殖腺のホルモン)
25	体温の調節 1 (熱産生と熱放散)
26	体温の調節 2 (体温調節機構)
27	生殖器 1
28	生殖器 2
29	定期試験
30	答案返却, 解説
31	答案返却, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学 I ）

学科名 理学療法科
学年 1 年

1 授業の内容

運動学は理学療法士が理学療法を行う上で基礎なる学問です。運動学 I では主に関節運動を力学的に学習します。そして運動学 II で学ぶ関節運動から動作（基本動作・歩行）に繋がられるように基礎的なことを中心に学習します。

2 到達目標

- ・関節がどのように動くのか理解できる。
- ・運動を力学的に理解できる
- ・基本動作・歩行を理解できる

3 授業の方法

運動学の教科書をもとにプリント作成・PowerPoint で授業。
小テストは適宜実施します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業の質問の返答、積極性なども重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習はシラバスに沿って基礎運動学の内容を読んでくる。
復習は授業資料・小テストなどの復習

7 使用教材，教具

基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

運動学は理学療法士が理学療法を行う上で基礎となります。運動がどのように起こるのか頭で考えるだけでなく自分の身体を動かしながら理解するのが一番です。理学療法士は運動・動作の専門家です苦手意識を持たず興味を持って学びましょう。

9 教員氏名（ 川原 洋一 ）

所属（ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり。

臨床現場の経験をもとに運動学 I の指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (運動学 I)

回数	授業内容
1	運動学とは
2	運動方向・運動学的分析・筋力と重力・モーメント・運動法則・仕事エネルギー
3	身体とてこ・骨と関節運動・運動器の構造と機能
4	運動学基礎
5	基本的動作の力学的特徴
6	上肢帯と上肢の運動（上肢帯・肩）
7	上肢帯と上肢の運動（肘・前腕）
8	上肢帯と上肢の運動（手・手指）
9	下肢帯と下肢の運動（股関節）
10	下肢帯と下肢の運動（膝関節）
11	下肢帯と下肢の運動（足関節）
12	体幹の運動（頭部・頸部）
13	体幹の運動（腰椎）
14	まとめ 上肢・体幹・下肢
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生化学と栄養 ）

学科名 理学療法 科
学年 1 年

1 授業の内容

運動療法を行う、理学療法士としてリハ栄養の知識は必須事項になっています。疾患との栄養の関係や加齢に伴う栄養の重要性を理解し、理学療法が行えるようになりましょう。また、薬物の作用、副作用について理解を深める。

2 到達目標

運動と栄養の関連を理解し、リハ栄養について簡単な説明ができるようになる。薬剤名やその作用、副作用について理解し、リハビリテーションへの影響について考えることができるようになる。

3 授業の方法

教科書、配布資料を用いて講義形式で行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

適宜、レポートや小テストを実施します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業ごとに資料を配布しますので資料の見直しをおこないましょう。

7 使用教材，教具

授業の際に資料を配布します。

8 学生へのメッセージ

理学療法士としてリハ栄養だけでなく、健康予防分野でも栄養学は役に立ちます。栄養状態はリハビリテーションの効果にも影響しますので、理学療法士として栄養についてアプローチできる人材になってください。また、薬剤の副作用によって、リハビリテーションへのリスクは大きく変化します。服薬状況なども踏まえてリハビリテーションを提供していきましょう。

9 教員氏名（ 應戸健剛 ）

所 属（ 長崎徳洲会病院 リハビリテーション科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務。

臨床現場の経験をもとに生化学と栄養の指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (生化学と栄養)

回数	授業内容
1	リハビリテーションと栄養
2	運動と栄養・栄養評価
3	タンパク質とアミノ酸
4	酵素・ホルモン・消化と吸収
5	糖質・脂質の代謝・ビタミン
6	主な病態の栄養管理
7	静脈・経腸栄養法・栄養と摂食嚥下
8	薬に関する基礎知識・ドーピング
9	中枢神経系に作用する薬物、末梢神経系に作用する薬物
10	ホルモンと代謝障害治療薬、抗炎症薬と抗アレルギー薬
11	循環器系に作用する薬物、血液・造血器官に作用する薬物
12	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物
13	泌尿・生殖器系に作用する薬物、ビタミン、抗感染症薬
14	消毒液と皮膚・粘膜に作用する薬物、抗悪性腫瘍薬と免疫抑制薬
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (リハビリテーション医学概論)

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

理学療法士に求められる疾患や身体機能についての評価やリハビリテーションの概要、専門的な講義の前に概要を説明して職業イメージをもってもらうことを目的とします。リハビリテーションの専門職としての理念や、運動療法、物理療法、福祉機器、各種検査機器などを総論的に理解し、チーム医療の一員として働く理学療法士像を共有したいと思えます。

2 到達目標

- ・「リハビリテーションとは何なのか」の全体のあらすじが理解できることで、今後、卒業までに学ぶ各論や実習に対する事前準備（心構え）ができる。
- ・リハビリテーション医学概論の思想と体系、その具体的内容を理解し、リハビリテーション医学に従事する専門職としてのプロフェッショナリズムを考えることができる。

3 授業の方法

講義形式

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

講義内容をまとめるレポートや小テストを行うことがあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業で配布する資料の予習・復習により、知識の定着を促してほしい。

7 使用教材、教具

- ・教科書 PT・ビジュアルテキスト リハビリテーション医学 第1版 羊土社

8 学生へのメッセージ

各専門教科で学ぶことを整理する良い機会になると思います。広く浅くではありませんが、一つのことにとらわれず、広い範囲でリハビリテーションを再考してもらえよう準備をします。授業を通してインプットだけでなく、アウトプットできる姿勢が身につくよう期待します

9 教員氏名 (大石勝規, 田中努)

所 属 (大石・田中：こころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (全員が病院にて勤務理学療法士として勤務経験あり。)

臨床現場の経験をもとにリハビリテーション医学概論の指導にあたる。(医療)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (リハビリテーション医学概論)

回数	授業内容
1	リハビリテーション医学・医療の理念
2	障害、理学療法評価・マネジメントについて
3	心身機能・身体構造・行動変容について
4	活動・社会参加・背景因子(環境因子及び個人因子)について
5	チーム医療-多職種連携について
6	各ステージ(病期)における医療とその特徴
7	急性期におけるリスク管理
8	骨関節疾患(運動器疾患)のリハビリテーション
9	脳血管障害、内部障害のリハビリテーション
10	高齢者の評価
11	介護予防領域における高齢者のリハビリテーション
12	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション
13	認知症のリハビリテーションについて
14	生活習慣病のリハビリテーションについて
15	定期試験
16	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 理学療法概論 ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

理学療法士を目指す学生にとって必要なリハビリテーションの基礎知識を習得します。それを具現化するためには、どのような方法があるのかを担当教員の実務経験を基に幅広く学びます。

2 到達目標

- ・理学療法に興味を持つ。
- ・リハビリテーションや理学療法の概念を理解する。
- ・フィールドワークを通して、バリアフリーやユニバーサルデザインの理解を深める。
- ・理学療法に関する研究活動に興味を持ち、どのような研究分野があるのか理解する。

3 授業の方法

講義形式とグループワーク

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% ， 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、積極的な質問，グループワークでの積極的な参加を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業で配布する資料の予習・復習により，知識の定着を促してほしい。

7 使用教材，教具

シンプル理学療法シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂版4版 南江堂

8 学生へのメッセージ

理学療法と一口にいってもその分野は多岐にわたります。その多様性を知ること、自分が将来活躍したい理学療法士像をイメージし、これからの学習への強いモチベーションとなってくれるような講義をしたいと思っております。

9 教員氏名（ 松永祐樹 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて勤務理学療法士として勤務経験あり。

臨床現場の経験をもとに理学療法概論の指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 理学療法概論 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	理学療法の定義と歴史の理解
3	理学療法に関する法律の理解
4	理学療法士としての役割の理解
5	理学療法の対象・領域について
6	理学療法士に求められる臨床思考の理解
7	理学療法の実際の流れについての理解
8	理学療法士の活躍できる場所について
9	理学療法の職能についての理解
10	理学療法教育の理解
11	フィールドワークの必要性について
12	理学療法研究についての理解
13	理学療法士に必要な運営や管理についての理解
14	理学療法と管理の必要性について
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (日常生活動作学)

学科名 理学療法科 科
学年 1 年

1 授業の内容

リハビリテーション経過の時期ごとで、日常生活活動評価の意義が異なることを理解し、基本動作を種々の動作に分類して、介助・指導法を学習する。

2 到達目標

ADLにおける基本動作について理解し、種々の基本動作について説明することができる。また、ADL評価の意義を理解し、説明することができる。

3 授業の方法

グループワークにて講義・実技を行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技に関しては、学生同士でしっかり練習を行い、イメージをしっかり作ること。

7 使用教材，教具

日常生活活動学テキスト 改訂第3版：南江堂

8 学生へのメッセージ

演習を行う場合があるので、実習着を準備すること。

グループワークを通して、学びを共有してほしい。

9 教員氏名 (小泉徹児)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務。

臨床現場の経験をもとに日常生活動作学の指導にあたる。(医療)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (日常生活動作学)

回数	授業内容
1	総論 (ADL の概念、ADL と QOL、ADL 練習と指導)
2	日常生活活動の動作分析の視点(動作観察と動作分析、身の回り動作の分析)
3	起居・移動動作(総論、起居・移動動作の役割)
4	起居動作(寝返り、起き上がり、坐位、立ち上がり)
5	床上移動動作(種類と目的、援助の方法)
6	歩行動作 (ADL と歩行、歩行指導)
7	福祉関連機器と自助具、歩行補助具
8	基本動作総復習、片麻痺患者の ADL①
9	片麻痺患者の ADL②
10	片麻痺患者の ADL③ (身の回り動作)
11	日常生活動作の評価と評価の実際
12	各種評価法(特徴、評価項目と尺度、注意点)
13	BI・FIM(特徴、評価項目と尺度、注意点)
14	総復習・まとめ
15	定期試験
16	答案返却・解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (検査・測定法 I (関節))

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

理学療法士は対象者の全体像を把握するために情報収集，検査測定を実施する。本授業では，検査測定の基本技術として，関節可動域検査，形態測定，血圧測定を学習する。同時に，実技経験することで医療従事者として患者様に接する基本的な態度を学び，実践力を備えた人材へと成長を促す。

2 到達目標

- ・関節可動域検査の意義・目的を理解し，正確な実技と記録が可能となる。
- ・形態測定の意義・目的を理解し，正確な実技と記録が可能となる。
- ・血圧測定の意義・目的を理解し，正確な実技と考察が可能となる。

3 授業の方法

担当教員の実務経験をもとに実務に必要な知識・技術の習得を促す。主にPCプロジェクトを利用したパワーポイントによる講義を行う。実技室での授業は，白衣着用とする。検査測定セットを必ず毎回持参すること。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験は，国家試験過去問題から出題します。授業態度は実技に取り組むや積極性、教示した内容の理解度・実践度などを総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容のまとめを適宜小テスト形式で実施することがあるので，予習および復習を徹底する。

7 使用教材，教具

シンプル理学療法シリーズ. 理学療法評価学テキスト. 南江堂

8 学生へのメッセージ

実技室での授業は，白衣着用とする。検査測定セットを必ず持参すること。実技ができるレベルになることと，国家試験問題に出題される基本的かつ実地的な知識を理解しましょう。

9 教員氏名 (大石 勝規)

所 属 (ころろ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに検査・測定 I (関節) の指導にあたる。(医療))

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (検査・測定法 I (関節))

回数	授業内容
1	ROM 測定法の目的と意義
2	ROM 肩甲帯, 肩関節屈曲, 伸展
3	ROM 肩関節外旋内旋, 内外転, 水平屈曲伸展,
4	ROM 肘関節屈曲伸展, 前腕回内外
5	ROM 手関節掌屈背屈撓屈尺屈, 手指 (MP, PIP, DIP),
6	ROM 上肢復習, 上肢確認テスト
7	ROM 股関節屈曲伸展, 内外転, 内外旋
8	ROM 膝関節屈曲伸展, 足関節底屈背屈, 足部内外転, 内外返し
9	ROM 足趾 (MP, PIP, DIP), 頸部屈曲伸展, 回旋, 側屈, 胸腰椎屈曲伸展, 回旋, 側屈
10	ROM 下肢復習, 下肢確認テスト
11	上肢, 下肢, 体幹の復習
12	疾患別の ROM 測定法
13	ROM OSCE(上肢・体幹)
14	ROM OSCE(下肢)
15	まとめ
16	形態測定法、体力測定法における目的と意義、触診
17	形態測定法 (四肢長) 上肢
18	形態測定法 (四肢長) 下肢
19	形態測定法 (四肢周径) 上肢
20	形態測定法 (四肢周径) 下肢
21	疾患別形態測定法、体脂肪測定法
22	形態測定法まとめ 体力測定の分析、評価、考察
23	形態測定 OSCE 体力測定の実際
24	血圧, 杖, 車椅子使用方法
25	ROM の考察作成方法, 形態測定の考察作成方法
26	ROM の考察作成方法, 形態測定の考察作成方法
27	国家試験過去問題
28	試験前対策
29	定期試験
30	答案返却・解説
31	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 検査測定演習（認定実技試験） ）

学科名 理学療法科
学年 1年

1 授業の内容

1 年次後期の実習に向けて、検査測定の演習を行う。

2 到達目標

検査測定を正しく実施できるようになる。

3 授業の方法

実技を中心に行います。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

標準理学療法学 専門分野理学療法 臨床実習とケーススタディ第3版，医学書院

8 学生へのメッセージ

臨床実習に向けて、実技を中心に実施していきます。

9 教員氏名（ 大石勝規 田中努 ）

所 属（ ころも医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（両名の教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに検査測定演習（認定実技試験）の指導にあたる。（医療））

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (検査測定演習 (認定実技試験))

回数	授業内容
1	徒手筋力検査法 (上肢) 演習
2	徒手筋力検査法 (下肢) 演習
3	徒手筋力検査法 (体幹) 演習
4	徒手筋力検査法まとめ
5	形態測定 (上肢) 演習
6	形態測定 (下肢) 演習
7	形態測定 (その他) 演習
8	形態測定まとめ
9	関節可動域測定 (上肢) 演習
10	関節可動域測定 (下肢) 演習
11	関節可動域測定 (体幹) 演習
12	関節可動域測定まとめ
13	血圧測定演習, 脈拍測定演習
14	Vital sign 測定まとめ
15	実技試験 フィードバック 演習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 地域リハビリテーション ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

地域リハビリテーションについて理解し、地域における理学療法士の役割や意義について学ぶ。

2 到達目標

地域リハビリテーションについて説明ができるようになる。

3 授業の方法

プロジェクターを利用したパワーポイントによる講義のほか、講義内容に関連する課題に対するグループワークを実施する。また、講義内容の理解度を確認するための小テストを一部行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験は国家試験の問題と記述式の問題を出題します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内容に応じて事前に教科書の予習・復習を行うこと。また、自分自身が地域で自立した普通の暮らしができていることについて考えてみましょう。

7 使用教材，教具

配布資料をもとに授業を進めていきます。

8 学生へのメッセージ

地域リハビリテーションの面白さが少しでも伝わればと思っています。

9 教員氏名（ 松永祐樹 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（病院にて理学療法士として勤務経験あり。臨床現場の経験をもとに地域リハビリテーションの指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (地域リハビリテーション)

回数	授業内容
1	自己紹介, コミュニケーション, 接遇, チームアプローチについて
2	地域リハの概念と歴史, 介護保険制度, 地域包括ケアシステム, ICF について
3	対人援助技術について
4	連携・協働について
5	リハビリテーションマネジメントについて
6	生活期の評価・アプローチについて
7	地域リハ概論(訪問リハビリテーションなど)
8	地域リハ概論(通所リハビリテーション, 通所介護など)
9	地域リハ概論(介護老人保健施設)
10	地域リハ概論(介護支援専門員模擬体験)
11	地域リハビリテーションの実際①
12	地域リハビリテーションの実際②
13	地域リハビリテーションの実際③
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 地域包括ケア ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

地域包括ケアとは、「要介護状態になっても、住み慣れた地域や自宅で生活し続けたい」と望む人が、必要なサービスを受けながら、在宅で自立した生活を続けられるように地域で支えるという考え方です。この概念を講義とグループワークで学びます。

2 到達目標

- ・地域包括ケアシステムに関する知識の習得
- ・さまざまな障害予防に関する知識を身につけ、実践できる。
- ・地域のニーズを把握し、それに対処する方法を熟考できる。

3 授業の方法

講義形式とグループワーク

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、積極的な質問、グループワークでの積極的参加を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布する資料等の予習・復習により、知識の定着を促してほしい。

7 使用教材，教具

パソコン室の使用も予定しております。

8 学生へのメッセージ

当講義ではグループワークを中心として自主的に調査しまとめ、発表するような形態を考えております。グループワークとはいえ、各々が積極的に取り組み、役割を持って協力し合うことを望みます。このような活動は臨床におけるチームアプローチと同一です。

9 教員氏名 （ 小泉徹児 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院，施設にて理学療法士として勤務。

臨床現場の経験をもとに地域包括ケアの指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 地域包括ケア ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション。地域包括ケアシステムとは？
2	地域リハビリテーションとは？介護保険制度とは？体力測定と評価とは？
3	長崎の予防リハビリテーションシステムを学ぶ 体力測定方法
4	高齢者（虚弱者を含む）が利用できるサービスを調べる
5	高齢者（虚弱者を含む）が利用できるサービス 発表
6	鳥取県における「あいサポート運動」解説
7	障害を知り，適切な援助法を学習する（1）
8	障害を知り，適切な援助法を学習する（2）
9	障害予防指導の実際（転倒・腰痛・膝痛・肩関節痛） グループワーク（1）
10	障害予防指導の実際（転倒・腰痛・膝痛・肩関節痛） グループワーク（2）
11	障害予防指導の実際（転倒・腰痛・膝痛・肩関節痛） グループワーク（3）
12	障害予防指導の実際（転倒・腰痛・膝痛・肩関節痛） グループワーク（4）
13	高齢者に対する障害予防指導の発表（1）
14	高齢者に対する障害予防指導の発表（2）
15	定期試験
16	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習 I（1週） ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の概要

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者・利用者とかかわり、理学療法士の仕事・役割を主に見学を通じて学ぶ。

2 到達目標

- (1) 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。
- (2) 理学療法士の仕事について理解する。

3 授業の方法

臨床実習現場にて実習を展開する。実習状況は実習教育者と連絡を取り進めていく。

4 成績評価方法

実習規定終了60%・課題・学習記録20%・実習経験シート20%

5 評価の際の特記事項

既定の実習終了で60点・課題・学習記録20%・実習経験シート20%
臨床実習教育者のコメントを考慮して学科内で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

デイリーノート、実習教育者の課題など

7 使用教材，教具

特に指定なし

8 学生へのメッセージ

理学療法士としてのあるべき姿を感じ、理学療法士としての資質面と学習意欲を高める。

9 教員氏名（ 松永祐樹 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり。

臨床現場の経験をもとに臨床実習 I（1週）の指導にあたる。（医療）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (臨床実習 I (1 週))

回数	授業内容
	【実習期間】
	1 年前期 (8 月の期間で 1 週間)
	【実習時間】
	1 週間 4 5 時間 (実習地 : 8 時間 × 5 日 + 自宅学修 : 1 時間 × 5 日)
	合計 1 週間 4 5 時間
	【実習場所】
	学校にて各学生を実習地に配置する